

食への興味を持ちながら自分で育てる喜びを味わう

社会福祉法人 南西保育園
4～5歳児(35人)
小池先生

活動のねらい

- ・自分で育てることで自然との関わりを豊かにし、生命の大切さを知る。
- ・植える、育てる、調理する、食べるという一連の活動の中で、食材や食への興味関心を深める。
- ・自分で育てたトマトを収穫するという達成感を味わう。
また、なかなか育たないなどのトラブルから試行錯誤する経験をする。
- ・家に持ち帰り保護者も一緒に育て、調理するなど、トマトの栽培を通して親子のふれあいを楽しむ。



活動の概要と流れ

4月下旬より、トマトや野菜に関する絵本や図鑑、自分だけのプランター作りなどの造形活動を通して、野菜や育てることに対する興味関心を高める様に環境構成を整える。
5月上旬に子どもたちが自分のプランターに苗を植える。
その後、実がなるまでは園庭にて、水やりや観察をする。
図鑑でトマトについて調べたりすることを通して、植物の成長を知ったり、自分で調べて実践するといった実験的思考を育む。
実がある程度大きくなった段階で順次、各家庭にプランターを引き渡し、親子でトマトが赤くなる過程を観察したり、実割れなどのトラブルを調べたりする中で、作物を育てることの大変さを知り、食への興味関心や食材を作っている農家さんへの感謝の気持を育む。また、自分が育てたトマトを収穫することで、達成感や充実感を味わう。
各家庭で収穫したトマトは、それぞれ調理してもらい、保育園に料理の写真を提供してもらう。
写真はクラスに掲示し「何を食べたのかな?」「何を食べたい?」といったコミュニケーションにつなげる。



保護者の方にもご覧いただけるように保育系のツールを使用し、「トマト日記」として画像と共に随時配信した。

<ある日の配信から>

- ・先生によるトマト教室の後、4歳児はプランターとマイ植木鉢に苗を植え、5歳児は親子で植えました。
- ・少しずつ苗が大きくなってきました。
子どもたちが成長を見守った。
- ・園庭で育てているトマトも徐々に赤くなってきたが、猛暑による影響か元気がない。
保育園では栄養剤を入れてから、朝夕にたっぷりの水をあげた。
- ・給食に園庭で育てているトマトを使用した「トマトシチュー」を出した。自分たちが育てたトマトということもあり、苦手な子も「食べてみよう」といつもより食べていた。今後も続々と収穫できそう。



調理(実習)メニュー

給食で「トマトシチュー」・「ミートスパゲッティ」を提供。

実施内容のポイント

- ① トマトや野菜に関する絵本や図鑑を見て調べる。
- ② 自分だけのプランター作りをする。
- ③ 各家庭での観察(栽培の大変さを知り、食への興味関心や農家さんへの感謝の気持ちを育む)。
- ④ 育てたトマトを実際に食べてみる。



取り組みの工夫と実践の成果

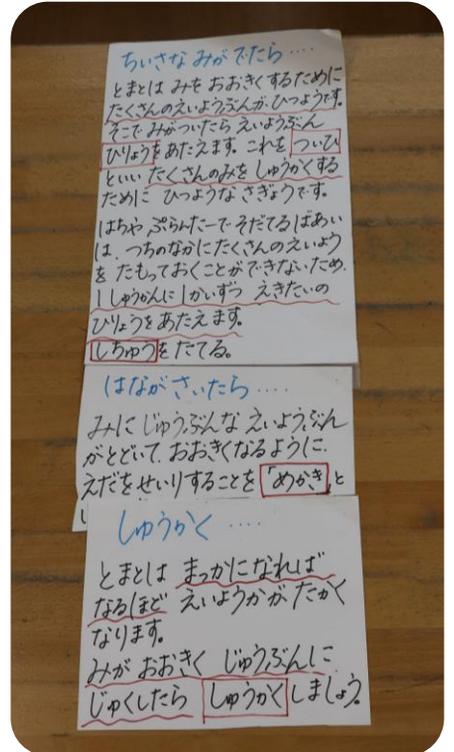
子どもたちの食への興味関心が広がり、今まで苦手だった食材に対しても「一口食べてみる」といった姿が見られるようになった。

また、たくさん採れた子がいた一方で、実割れしたりといった問題があり、少ししか採れなかった子がいるなど、作物を育てる厳しさを知る良い機会となった。

自分で植え、育て、問題に直面したら調べて解決し、収穫するという一連の活動を通しての学びが多くあった。「どうしたら大きくなるかな?」「こうしたら良いらしいよ」と友達同士で協力しながら試行錯誤し、実際に収穫した達成感から「自分もやればできる」という自信につながったり、友だちと協力する大切さを知る活動となった。



トマト博士とトマトくん&トマトクイズ



トマトの解説

感じたこと

子どもたちの食への興味関心が広がり、「一口食べてみる」という積極的な姿勢が見られたことをうれしく思います。この経験で最も実感したのは、「体験の力」と「自然のリアリティ」です。たくさん収穫できた喜びの裏には自然の厳しさに直面する姿があり、命の恵みの尊さを知る貴重な学びとなりました。また、子どもたちが「どうしたら大きくなるか?」を友だちと協力して調べ、試行錯誤する姿は、まさに生きる力が現れたものでした。この一連のプロセスで得られた達成感は、「自分にもできる」という確かな自信につながったと感じています。

受賞理由

造形活動としてマイプランターを作成するなど、子どもたちがりりこに愛着を持って育てる工夫が光ります。栽培の途中で苗を各家庭へ引き継ぎ、親子で成長を見守り、調理するといった独自の連携は、食への関心を園外へ広げました。また、「トマト日記」のライブ感ある情報配信を通じて、家庭との連携をスムーズにした仕掛けも見事です。